

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析(成果と課題)及び次年度の扱い(改善策等)
1 国際社会に貢献する人材の育成を主眼として、高い志を掲げ、その実現に向け主体的に努力でき、難関国公立大学等の大学に果敢にチャレンジする生徒を育てる。	① GIGAスクール構想に基づくICT機器の活用等を通じて、生徒の思考力、判断力、問題解決能力、表現力の育成を目指し、授業力の向上を図る。	授業評価において、「授業のねらい」「教員の熱意や工夫」「説明や指示」「考えさせる場面」「興味・関心が高まる」の5項目におけるA評価の平均が A 55%以上 B 50%以上 C 45%以上 D 45%未満	[12月実施「後期生徒による授業評価」] A評価の平均 55.6% →【判定 A】 <内訳> 「授業のねらい」 56.5% 「教員の熱意や工夫」 60.7% 「説明や指示」 55.8% 「考えさせる場面」 61.2% 「興味・関心が高まる」 43.8%	今年度前期と比較して、A評価の平均は56.4%→55.6%であった。内訳は、「ねらい」57.2%→56.5%、「熱意や工夫」61.3%→60.7%、「説明や指示」56.6%→55.8%、「考えさせる場面」62.3%→61.2%、「興味・関心」44.7%→43.8%である。目標を達成し判定Aであったが、全項目で微減であった。「興味・関心」の評価が低く、改善の余地があり、引き続き次年度に向けて、いかに生徒の学習意欲を高めるかに留意し、授業改善に努めたい。
	② 授業や総合的な探究の時間等の活動を通して、生徒が主体的に課題解決に取り組む姿勢を育む。	自らの学習について (ア)授業や課題以外に積極的に取り組み、独自の学習にも取り組んでいる。 (イ)授業や課題に積極的に取り組んでいる。 (ウ)授業や課題には取り組むが、自らを高めようとする努力や意識が足りない。 (エ)その場しのぎの学習が多く、極端に悪い成績を取らないように勉強している。 (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」] (ア)+(イ)の合計 66.0% →【判定 C】 <内訳> 英語 64%(ア:21%、イ:43%) 数学 76%(ア:24%、イ:52%) 国語 58%(ア:11%、イ:47%)	今年度前期と比較して、3教科の肯定的な回答の平均は68.0%→66.0%(英語65→64%、数学75%→76%、国語64%→58%)と数学は微増、英語は微減、国語は減少し、前期に続いて判定Cであった。生徒が自分に合った学習スタイルについて考え、主体的に学習に取り組むよう、生徒の自覚を促していくとともに、「興味・関心が高まる」ような仕掛けを考えて、得意分野を伸ばす発展的な学習に取り組ませていきたい。 総合的な探究の時間の活動の中に、主体的に課題解決に取り組ませる内容はあるが、全体の底上げはできていない。次年度の総合的な探究では、生徒一人一人が自身と向き合う内容を取り入れるように検討していきたい。
		家庭学習時間が学年の目標値に達している1・2年生のそれぞれの割合が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満	[9・11月実施「家庭学習時間調査」] 1年(2時間) 66.3% →【判定 A】 2年(2.5時間) 51.9% →【判定 B】	課題を適正な量でより内容の濃いものに見直すことはもちろん、主体的に家庭学習に取り組ませるためにも興味・関心を高める授業改善を進めていきたい。試験や行事に大きく左右されことなく学習時間を確保し、今後もこのような結果を保ち、質的にも向上させたい。
	③ 国際社会において必要不可欠な英語によるコミュニケーション能力を身に付けようとする態度を育成する。	2年次12月に受検するGTEC検定版において、CEFR-Jの基準で、A2.2以上の成績を収めた生徒の割合が、 A 70%以上 B 60%以上 C 40%以上 D 40%未満	[12月受検GTEC検定版] 2年生が12月受検したGTEC検定版の結果 A2.2以上 299人 88.7% →【判定A】	B1.2 14人、B1.1 95人、A2.2 190人、A2.1 37人、A1.3 1人であった。2年人文科学コースでは、7月、10月の県内在住外国人との交流研修において各生徒が課題研究のプレゼンテーションなどを通じて、留学生(JAIST)と能動的に英語で会話をし学習意欲を高めることにつながった。
	④ 高い志を持って進路目標の実現に向かう生徒を育て、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	合格者数が ア 難関大学合格者数 20名以上 イ 金沢大学合格者数 60名以上 ウ 国公立大学合格者数 220名以上 A ア・イ・ウの3指標すべてを達成 B ア・イ・ウのうち、2指標を達成 C ア・イ・ウのうち、1指標を達成 D ア・イ・ウの3指標とも達成できず	[大学入試結果] ア 17名(現役13名+既卒4名) イ 67名(現役63名+既卒4名) ウ 276名(現役252名+既卒24名) イ・ウの2指標を達成 【判定 B】	3年生(現役)だけの集計によると、国公立大学現役合格者数、難関大学合格者数および金沢大学合格者数はここ最近20年間で最高の結果を残すことができた。 放課後や休日の3年生の自主的な登校学習が見られ、最後まで粘り強く努力した。 2年生に対して、1月に行われた進路希望調査では難関大学志望者が22.3%であった。3年生が19.8%であったことを踏まえると高いと思われるが、上位の大学を狙う意識の醸成をさらにしていかなければならない。

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

	<p>⑤ 「進学校における部活動」を追求し、学校として生徒が学習と部活動を両立できるよう配慮し、かつ指導を徹底している。</p>	<p>限られた時間の中で効率的・効果的な活動に取り組んでいる部活動が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>下校時間を遵守している生徒が (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」 (ア)+(イ)の合計 76%(ア:25%、イ:51%) →【判定 C】</p> <p><内訳> 1年 77%(ア:26%、イ:51%) 2年 71%(ア:20%、イ:51%) 3年 80%(ア:30%、イ:50%)</p> <p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」 (ア)+(イ)の合計 91%(ア:64%、イ:27%) →【判定 B】</p> <p><内訳> 1年 91%(ア:63%、イ:28%) 2年 86%(ア:50%、イ:36%) 3年 99%(ア:80%、イ:19%)</p>	<p>前期より1年生では14%、2年生では16%減少した。3年生が抜け、部の中心として日々の活動や大会に出場する機会が増えてきたことが考えられるが、引き続き、部活動の休養日の適切な設定や限られた時間の中でより効率的・効果的な取り組みが必要となってくる。今後さらには文武両道を目指し、取り組みの改善を促していきたい。</p> <p>概ね遵守している割合が高いが、部活動後の下校時間の遵守を徹底するよう働きかけていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>大学卒業後、その先を示していくことが、現在の学習の興味・関心につながる。「県内在住外国人との交流研修」「海外に進出している県内企業研修」など、体験型・見学型の学習を推進してほしい。どのような進路志望が「高い志」となるのかを再確認し、指導に取り組んでほしい。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>進路指導課主管の「社会人と語る会」(1年)「インターンシップ」(2年)やNSH推進課主幹「総合的な探究の時間」の課題探究も更に充実させることで、より主体的に努力できる生徒の育成に努めたい。生徒が進路目標を設定するとき、志望が漠然としている場合も多いが、個々の生徒がより良い環境で学べるよう面談等を通じて提案していきたい。</p>			
<p>2 校訓「質実剛健」を不易のものとし、挨拶や感謝の心、規範意識やいじめを許さない姿勢など人としての基本を身に付けた、心身ともにたくましい生徒を育てる。</p>	<p>① 登下校指導、街頭指導、挨拶運動を通して規範意識を向上させる。</p>	<p>・積極的に挨拶をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満</p> <p>・きちんとした頭髪、服装をしていることについて (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 85%未満</p>	<p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」 (ア)+(イ)の合計 81%(ア:30%、イ:51%) →【判定 B】</p> <p><内訳> 1年 75%(ア:27%、イ:48%) 2年 85%(ア:32%、イ:53%) 3年 82%(ア:30%、イ:52%)</p> <p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)(保護者)」 (ア)+(イ)の合計 94.5% (生徒:96%、保護者:93%) →【判定 B】</p> <p><内訳> 1年 生徒96%(ア:58%、イ:38%) 2年 生徒97%(ア:58%、イ:39%) 3年 生徒95%(ア:58%、イ:37%) 注:保護者学年別データなし</p> <p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)」 (ア)54% →【判定 C】</p> <p><内訳> 1年 57% 2年 50% 3年 55%</p>	<p>朝の登校指導時の挨拶を通じて少しずつではあるが積極的に挨拶をする生徒が増えてきた様子が伺える。挨拶で学校全体が活気ある雰囲気になるよう今後も様々な場面で挨拶の励行に努めていきたい。</p> <p>容儀に関する細かい規定がなくなりつつある中、今後も生徒が自ら考えて主体的に物事を適切に判断し、ふさわしい容儀・行動ができるよう働きかけていきたい。</p> <p>前期より5%減少し、まだまだ交通ルール順守に対する意識が高くない。自転車運転時の交通違反に対して反則金や青切符の導入が検討され、今後、処分も厳しくなってくると考えられるが、引き続き、交通安全教室の実施などを通じ、事故防止、ルールの遵守、マナーの向上を図っていきたい。</p>

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

	<p>③ 各課や学年が連携を密にすることによって、生徒の悩み(学習・人間関係・部活動など)が深刻化し、不登校にならないように、相談しやすい環境を整える。</p>	<p>(生徒用) 本校は悩み(学習・人間関係・いじめ・部活動・健康状態など)を相談しやすい。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)+(イ)が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満</p> <p>(教員用) 相談課と各課・学年・関係委員会とが連携し、悩みがある生徒の早期発見と対策がとられている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (オ)わからない (ア)が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 (ア)+(イ)の合計 55%(ア:22%、イ:33%) →【判定 C】</p> <p><内訳> 1年 55%(ア:18%、イ:37%) 2年 51%(ア:19%、イ:32%) 3年 59%(ア:29%、イ:30%)</p> <p>[12月実施学校評価アンケート(教員)』 (ア)46% →【判定 C】</p>	<p>「よくあてはまる(22%)」「ほぼあてはまる(33%)」と答えた生徒が前期よりも6%減少した。3年生が最も高く、2年生が低いことがわかった。更に、わからないと答えた生徒が4%増加した。「わからない」と答える生徒の割合が多いのは、相談したことがないからだと考えられる。悩みを打ち明けやすい相談室になるように、集会や相談室だよりを通して、周知徹底していきたい。</p> <p>「よくあてはまる(46%)」と答えた教員が前期より5%減少し、目標値には至らなかった。コロナ禍から続く不登校傾向の生徒は以前と比較して増加し、かつ理由が多様化している。各課・学年・関係委員会で連携を深め、連絡を更に密する必要がある。</p>
	<p>④ 面談等を通して、生徒が主体的に自分の生活や時間の使い方を振り返る、自律の態度を育成する。</p>	<p>学習以外でのスマートフォンの使用時間が1日1時間以内であるという生徒が A 60%以上 B 50%以上 C 40%以上 D 40%未満</p>	<p>[12月実施「学校評価アンケート(生徒)』 53%(30分以下:24%、30～60分以下:29%) →【判定 B】</p> <p><内訳> 1年 38%(30分以下:16%、30～60分以下:22%) 2年 50%(30分以下:26%、30～60分以下:24%) 3年 72%(30分以下:31%、30～60分以下:41%)</p>	<p>学年が進むにしたがって使用時間の減少が顕著であった。3年生は進路実現に向け学習に集中していることが考えられる。今後は特に1年生の使い方について、学習への弊害にあわせ、SNSでのトラブル、モラルの問題について警察等関係機関の協力を得ながら指導していき、進学校としてあるべき使用方法を実践させていきたい。</p>
	<p>⑤ 幅広い読書を意欲的に行うことで思考と情操を深め、自らの人格形成に活かす生徒の育成を図る。</p>	<p>1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合が A 50%以上 B 40%以上 C 30%以上 D 30%未満</p>	<p>[読書量調査(生徒)』 2月1ヶ月間に1冊以上本を読んだ生徒の割合56.6% →【判定 A】</p> <p><内訳> 1年 64.8% 2年 48.3% 3年 例年9月と2月は調査数に含めない。</p>	<p>6月調査では、1か月に1冊以上読んだ生徒(1年・2年)が21.8%【判定D】、9月調査では41.3%【判定B】となり、2月調査では50%を超えることができた。 秋の読書週間時1・2年生LH集団読書では、本のプレゼンテーションに取り組ませるなど、新しい工夫を取り入れた。青少年読書感想文コンクール・読書感想画中央コンクールで本校生徒3名が石川県代表に選ばれ、手応えを感じる1年となった。今後も各教科や各課との協力的体制を整えて、生徒の読書への関心を高め内面の成長を促す取り組みを進めていきたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>「あいさつ」がまだまだであり、しっかりできていない。朝の交通安全運動などに、生徒自身が参加する機会を設けることで意識を高めることができるのではないかと。相談しやすい環境を整えるために、対面ではなく、フォーム等を利用して、匿名での相談を入口とすることで心理的な敷居を下げることもできるのではないかと。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>コミュニケーション能力は大切であり、登下校指導、挨拶運動などを通して意識を向上させていきたい。メンタル面での注意が必要な生徒は間違いなく増えており、対面での相談ができない生徒へのアプローチについては、その方法や手段も含めて検討していきたい。</p>			

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

3	校是「文武両道」の実践に、教職員の共通理解のもとで取り組み、生徒の主体性を育み、自己肯定感を高め、明るく活気のある、地域から信頼される学校づくりに努める。	① 校長が示すビジョンとリーダーシップのもと、全教職員が組織的に協力し合いながら学校運営がなされている。	業務の平準化に向けた取り組みがなされ、組織的な学校運営が進められている。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)』アンケートの項目№4「職員会議や各種会議が、効率的に運営され機能している。」で評価 (ア)25% →【判定 C】	前期(26%)とほぼ同じ結果であった。業務を進める上で、効率的な運営のために、分掌間、分掌内での調整を業務実施前に行うこと、業務実施後は反省点をまとめ、次に活かすことで改善を図りたい。																							
	② 校内研修会をより充実させ、今日的課題の理解とそれに対応する教員の資質を高めるとともに、若手教員早期育成プログラムを計画的に実施する。	取り組んだ研修の成果を教育活動の充実に役立てることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)が A 40%以上 B 30%以上 C 20%以上 D 20%未満	[12月実施「学校評価アンケート(教員)』 (ア)22% →【判定 C】	若手教員早期育成プログラムをはじめとした校内研修をより実践に役立つものにしていきたい。教育ICT環境の実現に向けたGIGA校内研修を各教科で実施した。今後よりよい授業設計を目指し、ICTの効果的な利用につながる研修を計画、実施していきたい。AED講習会を開催しているが、その講習の充実を図るとともに、様々な教育活動の実践に活かせるような研修も検討していきたい。																								
	③ 部活動の活性化を通して、生徒が誠実に学校生活に取り組むとともに、自主性や自立心の育成を図る。	部活動に加入している生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	[10月集計「後期部活動加入状況」] 90.5%(1・2年のみ対象に調査) →【判定 A】 <内訳> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">運動部</td> <td style="text-align: center;">文化部</td> <td style="text-align: center;">合計</td> </tr> <tr> <td>1年 男子</td> <td style="text-align: center;">76.9%</td> <td style="text-align: center;">15.1%</td> <td style="text-align: center;">91.9%</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td style="text-align: center;">41.9%</td> <td style="text-align: center;">52.3%</td> <td style="text-align: center;">94.2%</td> </tr> <tr> <td>2年 男子</td> <td style="text-align: center;">78.3%</td> <td style="text-align: center;">8.4%</td> <td style="text-align: center;">86.7%</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td style="text-align: center;">49.7%</td> <td style="text-align: center;">39.4%</td> <td style="text-align: center;">89.1%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td style="text-align: center;">61.5%</td> <td style="text-align: center;">29.0%</td> <td style="text-align: center;">90.5%</td> </tr> </table>		運動部	文化部	合計	1年 男子	76.9%	15.1%	91.9%	女子	41.9%	52.3%	94.2%	2年 男子	78.3%	8.4%	86.7%	女子	49.7%	39.4%	89.1%	全体	61.5%	29.0%	90.5%	昨年度の87.8%から増加し判定Aとなった。中学では部の精選、外部団体への移行など学校部活動を取り巻く環境が急速に変化し、今後どうなるかわからない状況の中、本校では引き続き生徒が文武両道への意識を高く持ち続け、継続して部活動ができるような部の在り方を考えながら、活気あふれる部活動につなげていきたい。
		運動部	文化部	合計																								
1年 男子	76.9%	15.1%	91.9%																									
女子	41.9%	52.3%	94.2%																									
2年 男子	78.3%	8.4%	86.7%																									
女子	49.7%	39.4%	89.1%																									
全体	61.5%	29.0%	90.5%																									
④ 本校の教育活動に参加する保護者、地域の方々及び同窓生(保護者等)を増やすことにより、生徒の活動の様子を直に見てもらい、家庭及び地域と学校との連携を更に深める。	本年度、下記の本校学校行事に参加した保護者の延べ人数が A 4500名以上 B 4300名以上 C 4000名以上 D 4000名未満 行事:PTA総会、桜高祭、学校公開、進路説明会、3S歩行、入学式、卒業式、学校訪問(中学校PTA)	[令和5年度の実績] 保護者の延べ人数 3,469名 →【判定 D】 <内訳> 入学式 522名 卒業式 486名 P T A 総会 364名 進路説明会 1年 273名 進路説明会 2年 197名 進路説明会 3年 124名 桜高祭 602名 3 S 歩行(協力者会議含む) 454名 学校公開(教育ウィーク) 102名 学校訪問(中学校PTA) 345名	新型コロナウイルスが5類に移行し、コロナ禍前とほぼ同様に行事等を実施した結果、保護者の学校行事参加者数は昨年度(2,785名)より大幅に増加した。今後、多くの方々に来ていただけるよう各課・学年等と連携して取り組んでいきたい。																									
年間を通じての本校ホームページへのアクセス数が A 40万件以上 B 35万件以上 C 30万件以上 D 30万件未満	[年間の本校ホームページアクセス数] 427,821件(4月～3月末) 【判定 A】	前年度(354,109件)と比較して大幅に増加した。12月までは前年度を下回っていたが、部活動情報の更新や学校行事の様子をこまめに発信した結果、アクセス数が増加した。今後は、個人情報の扱いに配慮しながら、生徒の日々の活動を掲載し、保護者・中学生・地域の方々の本校への理解を深めていきたい。																										
学校関係者評価委員会の評価	教員業務の補助を行ってもらえるよう地域との連携を図るとよいのではないかと。「文武両道」の取り組みにおいて、部活動で無駄な時間を減らし生徒・教員の負担軽減を図ることが大切ではないか。																											
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	地域から愛される学校となるよう、日頃の教育活動を充実させるとともに、生徒による地域貢献活動なども探していきたい。学習や部活動に集中し頑張る時間と力を抜いて休む時間をはっきり分ける。メリハリをつけて取り組むことを指導していきたい。																											

令和5年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢桜丘高等学校

<p>4 組織運営・教職員の働き方の改善に対する意識を高め、時間外勤務時間の縮減に努め、より効果的な教育活動を実践する。</p>	<p>① 業務を細部まで見直し、会議や組織の運営、業務遂行の効率化、教職員の意識改革を進めることによりワークライフバランスを図り、教育活動の充実に努める。</p>	<p>時間外勤務時間の縮減に努めることができた。 (ア)よくあてはまる (イ)ほぼあてはまる (ウ)あまりあてはまらない (エ)あてはまらない (ア)+(イ)の合計が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満</p>	<p>[12月実施「学校評価アンケート(教員)」 (ア)+(イ)の合計 60%(ア:20%、イ:40%) →【判定 C】</p>	<p>前期(ア)+(イ)の合計 61%(ア:15%、イ:46%)と比較すると、合計はほぼ変わらないが、(ア)の割合が5%増えた。新型コロナウイルス感染症の5類移行により、時間外勤務時間に占める部活動の割合が高まっているが、これまで以上に、部活動については、生徒・教員のゆとりの時間の確保を意識して、休養日や活動時間を適切に設定するよう働きかけを行っていききたい。</p>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>働き方改革の推進、生徒の向上心を高める方法として、レポートなどの評価を生徒相互で取り組ませることが有効ではないか。効率化も大切だが、時間をかけなければよい結果が出ないということも真である。時間をかけて体験を積み上げることが人間形成につながるということも重要である。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p>	<p>教員が行っている指導の中で、生徒に任せられる部分はどこかを判断した上で指導方法の改善と働き方改革を進めていきたい。生徒が様々な活動に主体的に取り組めるよう、どのように生徒へ時間を返していくべきか、検討していきたい。</p>			